

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪工業技術 専門学校	昭和51年10月1日	校 長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人福田学園	昭和40年3月31日	理事長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27 (電話) 06-6352-0093			
目 的	本学科は夜間という限られた時間の中で、建築学科(昼間部)同様に史的認識に立脚して現代の建築と、それを取り巻く環境について考察し、そのあるべき姿を模索し、その実現化を図るという建築学科としての伝統的目的の追求と共に、社会に要求される設計力や仕事力を身につけることを目的としている。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	専門課程	建築学科Ⅱ部	2年(夜)	1,728単位時間 (又は単位)	平成7年文部科学省 告示第7号	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		612単位時間 (又は単位)	396単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	864単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		106人	10人	9人	19人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 ※但し、年度により変更する場合がある。			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 優・良・可(100～60点)を合格とし、 不可(59点以下)を不合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：Ⅰ部 8月10日～9月20日 Ⅱ部 7月24日～8月31日 ■冬 季：Ⅰ部 12月20日～1月7日 Ⅱ部 12月23日～1月7日 ■学 年 末：共通 3月24日～4月5日 ※但し、年度により変更する場合がある。			卒業・進級条件	進級条件は必須科目12単位を含め、合計24単位以上履修合格すること。また、卒業条件は必須科目合計22単位を含め、総合計72単位以上履修合格すること。	
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 クラス担任制により、定期的に学生本人のみならず保護者とも連絡をとり、状況確認をしながら適切な指導を行っている。			課外活動	■課外活動の種類 現場見学会・作品展示会・講演会・レクレーション等 ■サークル活動 (有・無) 野球部・エコー部・ロボット研究部等	

就職等の状況	■主な就職先、業界等 建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他 ■就職率^{※1} 83.3% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2} 48.8% ■その他（任意） （平成27年度卒業者に関する平成28年5月時点の情報）	主な資格・検定	2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者、ビジッ 祿能力検定、他
中途退学の現状	■中途退学者 12名 ■中退率 12.1% 平成27年04月01日在学者 99名（平成27年4月入学者を含む） 平成28年03月31日在学者 87名（平成28年3月卒業生を含む） ■中途退学の主な理由 経済的困難、進路変更（就職等）、家庭の事情等 ■中退防止のための取組 クラス担任制により、日々、出席管理をしており、学生本人のみならず保護者とも連携をとり、生活の管理をも含めた指導を行っている。		
ホームページ	URL:http://www.oct.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 09 日現在

名 前	所 属
児玉 哲也	一般社団法人 日本建築学会近畿支部 事務長
谷山 光	一般社団法人 歴史まちづくり研究会・うじ 理事
村野 智子	有限会社アトリエエムズ オフィス長
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副校長
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
竹中 智司	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 建築系科長
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進路支援室長

(開催日時)

第1回 平成 28 年 09 月 09 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00

第2回 平成 28 年 10 月 30 日 (日) 11 : 00 ~ 13 : 00 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、プレゼン力、営業力、会計力等の力（本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする）の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種（企画・営業・設計・施工等）で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。併せて、建築製図 I の内容を含む。	一級建築事務所 Atelier 棲咲舎
設計製図 II	1 年次での設計製図 I や計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てるができるということを前提条件にして設計演習を行う。課題テーマとしてコミュニティ施設、図書館、複合施設、公共建築物を取り上げ、課題発表を受けて与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化や図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程および作図、プレゼンテーションまでを理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	一級建築事務所 Atelier 棲咲舎

--	--	--

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 05 日現在

名 前	所 属
松山 義広	県立奈良朱雀高等学校 建築工学科長
藤山 等	株式会社 昭和工務店 総務部長
河野 正道	住友精密工業株式会社 総務人事部 アシスタントマネージャー

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/evaluation-results.php>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/provision-information.php>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築学科Ⅱ部) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			設計製図Ⅰ	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種（企画・営業・設計・施工等）が必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。併せて、建築製図Ⅰの内容を含む。	1通	144	4			○
○			構造力学演習Ⅰ	構造力学の関連科目で、演習問題を解きながら骨組みの力学の基本を理解する。前半では建築数学の基本演習を行い、構造力学へと導入していく。	1前	36	2	△	○	
○			構造力学演習Ⅱ	構造力学の関連科目で、演習問題を解きながら骨組みの力学の基本を理解する。前半では建築数学の基本演習を行い、構造力学へと導入していく。	1後	36	2	△	○	
○			計画基礎演習Ⅰ	建築初学者に向け、建築設計・計画の初歩を体系的に解説し、演習課題を通して計画の基礎を習得します。身近な室内空間や住宅を題材とし、計画上の留意点・考え方の歴史の変遷・構造的変遷も同時に理解しつつ、習得すべき計画の立ち上げ方、技法のバリエーション、空間の捉え方を具体的な課題をベースにトレーニングします。	1前	36	2	△	○	
○			計画基礎演習Ⅱ	建築初学者に向け、建築設計・計画の初歩を体系的に解説し、演習課題を通して計画の基礎を習得します。住宅から公共建築物まで幅広く題材に用い、計画上の留意点・考え方の歴史の変遷・構造的変遷も同時に理解しつつ、習得すべき計画の立ち上げ方、技法のバリエーション、空間の捉え方を具体的な課題をベースにトレーニングします。前期の内容を受け、より具体的な設計課題による演習を行います。	1後	36	2	△	○	
○			建築計画Ⅰ	建築というものは人間のための空間である。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければならない。建築空間は、「機能的」「安全性」「社会的」「造形的」を含めた総合的造形物として創造していかなければならない。 この授業では、建築計画の概略から住宅の計画手法、学校教育施設の計画まで、基本的な考え方を身につけ、総合的にとらえて建築を計画・設計する能力を養う。	1前	36	2	○		
○			建築計画Ⅱ	建築というものは人間のための空間である。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければならない。建築空間は、「機能的」「安全性」「社会的」「造形的」を含めた総合的造形物として創造していかなければならない。 この授業では、社会教育施設から医療・福祉施設、商業施設の計画まで、公共建築物について基本的な考え方を身につけ、総合的にとらえて建築を計画・設計する能力を養う。	1後	36	2	○		

○			建築史 I	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。	1 前	36	2	○		
○			建築史 II	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。	1 後	36	2	○		
○			建築法規 I	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を事例を交えて学習する。	1 前	36	2	○		
○			建築法規 II	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を事例を交えて学習する。	1 後	36	2	○		
○			建築一般構造 I	この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考える。	1 前	36	2	○		
○			建築一般構造 II	この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使いたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1 後	36	2	○		
○			構造力学 I	建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学 I ではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1 前	36	2	○		
○			構造力学 II	構造力学 II では材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学 I で学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1 後	36	2	○		
○			情報処理演習	建築技術者でも、IT リテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンに触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。	1 前	36	2	△	○	
○			建築施工法 I	建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。 この建築施工概論の講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法などを系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。	1 後	36	2	○		

○			建築基礎演習 I a	日々の講義前後に理解度確認のための課題演習や課題解説・研究を行って、重要科目の確実な習得に役立てる。 「I a」は建築計画に対応し、各講義回の内容に従って演習や課題研究を行う。	1通	36	1		△	○
○			建築基礎演習 I b	日々の講義前後に理解度確認のための課題演習や課題解説・研究を行って、重要科目の確実な習得に役立てる。 「I b」は建築法規に対応し、各講義回の内容に従って演習や課題研究を行う。	1通	36	1		△	○
○			建築基礎演習 I c	日々の講義前後に理解度確認のための課題演習や課題解説・研究を行って、重要科目の確実な習得に役立てる。 「I c」は建築一般構造に対応し、各講義回の内容に従って演習や課題研究を行う。	1通	36	1		△	○
○			建築基礎演習 I d	日々の講義前後に理解度確認のための課題演習や課題解説・研究を行って、重要科目の確実な習得に役立てる。 「I d」は構造力学に対応し、各講義回の内容に従って演習や課題研究を行う。	1通	36	1		△	○
○			建築基礎演習 I e	日々の講義前後に理解度確認のための課題演習や課題解説・研究を行って、重要科目の確実な習得に役立てる。 「I e」は設計製図Ⅱに対応し、各講義回の内容に従って演習や課題研究を行う。	1通	36	1		△	○
○			設計製図Ⅱ	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることができるということを前提条件にして設計演習を行う。課題テーマとしてコミュニティ施設、図書館、複合施設、公共建築物を取り上げ、課題発表を受けて与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化や図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程および作図、プレゼンテーションまでを理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	2通	144	4			○
○			CAD設計製図Ⅰ	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の1つでもある。 本科目では基本練習により2次元CADの基本操作を習得した後に、さまざまな条件が課せられた建築物の計画・設計、さらにその建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。	2前	72	2			○
○			CAD設計製図Ⅱ	近年、建築業界のあらゆる分野でコンピュータ化が進んでおり、設計関係においてCADは一般的な道具となっているのが現状である。従って、CAD設計製図は建築技術者として身に付けておくべき必須技術の1つでもある。 本科目ではCAD設計製図Ⅰの内容を受けてCADを利用して事務所ビルの計画・設計から建築図面の作成まで一連の作業を課題を通して学んでゆく。さらに構造や構法の違いによるディテールや図面表現の違いやプレゼンテーションへの展開も学ぶ。	2後	72	2			○
○			卒業制作	入学以来、学んできた建築に関するあらゆる知識を含め、自己の建築的指向をも反映した学校での総決算が卒業制作である。建築のもつ社会性、計画性、審美性、そして図面表現等を、高度なレベルで作品化することで、将来の建築を模索する上での一里塚としてもらいたいものである。 卒業制作はこの2年間の総まとめとして、与条件に適應するようきちんと建築計画（意匠、構造）を行い、それを図面に表現する作業が求められる。また学生個々の希望あるいは適正に応じてテーマを選択し若々しさに満ちた提案、最終的には図面化作業、プレゼンテーションという流れの制作も可能である。 担当教員の助言、指導を受けながら約半年に渡りおこなうものとする。	2後	72	2			○

○		計画演習 I	1年次の設計製図、計画基礎演習で基本的な学習を終えました。この講義ではそれを受けて「構想」する事に着眼して学んでいきます。多くの仕事は各自の経験や知識、技術の修練によりこなしていくことができるかも知れません。しかし全体を網羅的に捉え、プロジェクトを統括していくには「構想力」が重要な要素となります。ワークショップを通じての課題、設計課題およびそのプレゼンテーションを行うことにより、技術的な事に加え、建築に対する意識を広くまた深く考えながら「設計力」を身につけてもらいたいと思います。	2 前	36	2	△	○	
○		計画演習 II	計画演習 I で学んだ「構想力」を受け、現代社会や都市における問題点を探りテーマ設定を行う。個人における設計課題によって、企画・計画することを体験し、作品化作業からプレゼンテーションに至るまでを修得する。	2 後	36	2	△	○	
○		構造演習 I	不静定構造物の解析法から、各種構造(木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造等)の構造計画法および構造設計法について学び、構造計画と共に、各種構造の部材断面の考え方、設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学ぶ。	2 前	36	2	△	○	
○		構造演習 II	鉄筋コンクリート構造についての、部材設計法にまで掘り下げて構造技術者の基本となる考え方等について学び、簡単な建物の構造計算書の作成もおこなうものとする。	2 後	36	2	△	○	
	○	建築設計演習 I	建築初学者に向け、建築設計を演習課題を通して修得します。 希望者を募り集中講義形式での実施。	2 前	36	2	△	○	
	○	建築設計演習 II	これまでに学んだ「設計力」をベースに、現代社会や都市における問題点を探りテーマ設定を行う。個人における設計課題によって、企画・計画することを体験し、作品化作業からプレゼンテーションに至るまでを修得する。 計画演習 II と連動する内容となる。	2 後	36	2	△	○	
○		建築環境工学	この授業では、望ましい室内環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。「建築環境工学」という科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものであると考えている。	2 前	36	2	○		
○		建築設備	人間の生活に不可欠な空気、水、電気について学ぶ。主として木造住宅やマンション等の集合住宅や事務所ビルを対象として、快適な居住環境を創造するための諸設備(空調設備、給排水・衛生設備、電気・ガス設備等)について学習する。また、建築設計と設備計画との関連についても言及する。	2 後	36	2	○		
○		建築材料学 I	この科目は現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて詳しく学び、後半は同じく主要材料の鋼材(鉄骨や鉄筋等)について学ぶ。また今日地球環境保護の観点から、適切な廃材処理の方法・施工時の環境への配慮等が必要とされており、それらについても学ぶ。	2 前	36	2	○		
○		建築材料学 II	建築材料 I の続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等その特徴を知る。次に建築の主要な材料である木材について、地球環境の上からも世界の木材事情等を学び木材の大切さを知る。次に石材、ガラス、プラスチック等の知識を習得を目指す。	2 後	36	2	○		
○		建築施工法 II	1年次で学んだ建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、実際に施工するための技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な、基礎的な知識および知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。後期の建築施工法 II では仕上工事について学習する。	2 前	36	2	○		

